

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	100,000	償却債権取立益	100,000
2	仕入	500,000	支払手形	300,000
			当座預金	150,000
			当座借越	50,000
3	商品券	60,000	売上	100,000
			現金	40,000
4	給料	300,000	従業員立替金	50,000
			現金	250,000
5	現金	2,025,000	貸付金	2,000,000
			受取利息	25,000

・解説

1. 償却債権取立益に関する問題です。

貸倒債権を回収した場合の仕訳は、貸倒処理した時期によって異なります。

■前期以前貸倒処理・当期回収

本問のように、前期（以前）に貸倒処理した債権を当期に回収した場合、貸倒処理時に計上した貸倒損失や貸倒引当金を取り消すのではなく、**償却債権取立益**を計上します。

☆参考・貸倒時の仕訳

(借) 貸倒損失 or 貸倒引当金 400,000 / (貸) 売掛金 400,000

★解答・回収時の仕訳

(借) 現金 100,000 / (貸) 償却債権取立益 100,000

■当期貸倒処理・当期回収

一方、当期に貸倒処理した債権を当期に回収した場合、貸倒処理時に計上した貸倒損失や貸倒引当金を取り消します。以下の仕訳を確認しておいてください。

☆参考・貸倒時の仕訳

(借) 貸倒損失 or 貸倒引当金 \*\*\*\* / (貸) 売掛金 \*\*\*\*

☆参考・回収時の仕訳

(借) 現金 \*\*\*\* / (貸) 貸倒損失 or 貸倒引当金 \*\*\*\*

なお、償却債権取立益に関する問題は、第 117 回の間 3 や 第 127 回の間 3、第 141 回の間 3 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 仕入取引に関する問題です。  
この問題は【約束手形に関する仕訳】と【当座に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【約束手形に関する仕訳】

問題文に「代金のうち ¥ 300,000 は藤田商店を名宛人とする約束手形を振り出し」とあるので、300,000 円については支払手形勘定で処理します。

★解答仕訳①

(借) 仕入 300,000 / (貸) 支払手形 300,000

【当座に関する仕訳】

当座取引の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つが考えられますが、この分野は日商簿記検定 3 級の頻出論点なので、どちらの処理も必ず押さえておきましょう。

本問は、問題に列挙されている勘定科目に**当座預金・当座借越勘定がある（当座勘定がない）**ので、2 勘定制で処理すると判断します。

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制（解答）

当座を増加させるような取引（商品の売上や有価証券の売却など）の場合は、まず当座借越があるか確認します。当座借越があればそれを相殺したうえで残りを当座預金勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（商品の仕入や有価証券の購入など）の場合は、まず当座預金の残高があるか確認します。当座預金の残高があればそれをゼロになるまで減額したうえで残りを当座借越勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

本問は、問題文に「**当座預金の預金残高は ¥ 150,000 であった**」とあるので、まずは当座預金勘定を減額し、それでも足りない 50,000 円（=500,000 円-300,000 円-150,000 円）を当座借越勘定で処理します。

★解答仕訳②（2 勘定制を採用していた場合の仕訳）

(借) 仕入 200,000 / (貸) 当座預金 150,000  
(貸) 当座借越 50,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

■当座勘定のみを使う 1 勘定制（参考）

参考までに 1 勘定制による場合の仕訳も確認しておきましょう。当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って機械的に処理するだけなので 2 勘定制よりも簡単です。

☆1 勘定制を採用していた場合の仕訳（参考）

(借) 仕入 200,000 / (貸) 当座 200,000

当座取引に関する問題は、第 100 回の問 2や第 103 回の問 5、第 105 回の問 1、第 114 回の問 5、第 121 回の問 5、第 122 回の問 2、第 125 回の問 5、第 129 回の問 1、第 133 回の問 1、第 134 回の問 3、第 135 回の問 5、第 136 回の問 5、第 137 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 売上取引・商品券に関する問題です。

まず、問題文の「代金のうち ¥ 60,000 は当店発行の商品券で受け取り」から、以前に発行した**商品券の額面金額を支払う義務が消滅**したことが分かるので、商品券勘定を 60,000 円減額します。

★解答①（当店発行の商品券を受け取ったときの仕訳）

（借）商品券 60,000 / （貸）売上 60,000

残額の 40,000 円（=100,000 円-60,000 円）については、簡単な現金売上の仕訳なので特に問題ないと思います。

★解答②（残額を現金で受け取ったときの仕訳）

（借）現金 40,000 / （貸）売上 40,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

商品券に関する問題は、第 103 回の問 4や第 114 回の問 1、第 118 回の問 5、第 120 回の問 2、第 124 回の問 1、第 129 回の問 3、第 138 回の問 5、第 145 回の問 2でも出題されていますが、本問（商品券の授受）と第 114 回の問題（商品券の精算）が解ければ、簿記 3 級の商品券対策はじゅうぶんです。

4. 立替金に関する問題です。

立て替え時に計上した従業員立替金勘定のうち、入金があった分について現金勘定に振り替えるだけの簡単な問題ですが、本問のように「既に切られた仕訳を前提とする問題」は、実際に仕訳を書き出して考えてみると分かりやすいです。

☆既に切られた仕訳

（借）従業員立替金 50,000 / （貸）現金など 50,000

★今回、解答すべき仕訳（立替金に関する部分）

（借）現金 50,000 / （貸）従業員立替金 50,000

立替金がメインの問題は、第 113 回の問 2や第 126 回の問 3でも出題されているので、本問とセットで必ず押さえておいてください。取引の時系列的には「第 113 回の問 2→第 126 回の問 3 第・本問」という流れになります。

5. 貸付金の回収に関する問題です。

元本（2,000,000 円）の回収に関しては貸付金勘定を減額するとともに、同額だけ現金勘定を増額します。

換金性の高い（=銀行に持っていけばすぐに現金に交換できる）**他店発行の小切手は簿記上では現金として取り扱う**ので、これを受け取った場合は現金勘定を増額する、という点に気をつけてください。

なお、当店発行の小切手を受け取った場合は、振出時に減額した当座預金勘定を元に戻す（増額する）こととなります。こちらも頻出論点の 1 つですので、セットで押さえておいてください。

■小切手を受け取った場合の仕訳

他店発行の小切手…現金勘定を増額する

当店発行の小切手…当座預金勘定を増額する

一方、利息の受け取りについては、問題文の「期間 3 か月」という部分を見落とさないように注意してください。問題文を読んだときに丸で囲むなり、ラインを引くなりして目立たせておくと良いと思います。

$$\text{受取利息} = 2,000,000 \text{ 円} \times 5\% \times 3 \text{ か月} \div 12 \text{ か月} = 25,000 \text{ 円}$$

貸付金の回収に関する問題は、第 114 回の問 4や第 122 回の問 2、第 132 回の問 1、第 142 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。